

R1主事招聘研究授業【社会】リフレクションシート

令和元年度 竹富町立船浦中学校

互見授業（6月）リフレクション			令和元年度		
日付	7月2日	回答者数	8	竹富町立船浦中学校	
教科（学年）	社会（1年）		【本時のめあて】赤道をはさんで広がるアフリカ州の自然環境には①地形や②気候にどのような特色がみられます		
授業者 氏名					

小中連携共通実践事項	◎…よくできている ○…できている △…あまりできていない			評価	備考
	◎	○	△		
1 学習用具を忘れずに準備することができる。	80%	20%	0%	100%	
2 授業が始まる時刻には、席に着くことができる。	100%	0%	0%	100%	
3 授業のあいさつで3秒礼ができる。	100%	0%	0%	100%	

授業マネジメント（船中スタンダード）			◎…よくできている ○…できている △…あまりできていない			評価	備考
項目	三本柱		◎	○	△		
	4 学びのきっかけ・人間性	校内研修	深い学びへ	63%	38%	0%	100%
6 知識・技能	深い学びへ	深い学びへ	50%	50%	0%	100%	生徒は、『まとめ』の段階で、その時間で何を勉強したのか整理する
7 学びのきっかけ・人間性	主体的	主体的	38%	50%	13%	88%	生徒は、『振り返り』の活動で、その時間に勉強したことを自分の言葉で表し、振り返る力が身に付いている。
8 思考力・判断力・表現力	主体的	主体的	50%	50%	0%	100%	生徒は、「自分で考える」ことができる。
9 思考力・判断力・表現力	対話的	対話的	38%	63%	0%	100%	生徒は、自分の考えを「友人や先生に伝える」ことができる。
10 思考力・判断力・表現力	対話的	対話的	25%	63%	13%	88%	生徒は、友人や先生の考えを聞いて「自分の考えを見直したり、広げたりする」ことができる。

○よかったところ
 ・生徒が楽しく授業に参加していた。
 ・ペア学習を取り入れ、お互いに問題をつくり合う、クジで回答者を選ぶなど楽しくなる工夫が見られた。
 ・全員の出番があり、みんな積極的に活動していた。・めあてとまとめが正対していた。
 ・「サハラ」とはどのような意味？→砂漠→砂でできている部分は少ない。といった（疑問）と（質問）の問いかけが東大読書（質問読み）につながる。読解力を高める工夫だと思いました。
 ・クジが良かった。・板書に生徒の声が入っていた。・ICTの活用（ポイントをおさての写真の説明）・まとめる考えさせる時間の工夫。
 ・答えから問へを考える逆の発想での授業が面白いと感じた。
 ・一人一人が活躍する場があった。（板書も自分たちでGood.全員でつくる授業という感じがして生徒も生き生きとした。）
 ・フラッシュカード、1人1問の作問課題、クジ、ホワイトボード、声かけetc. 授業を活性化させる工夫がいろいろ。
 ・スモールステップでの指示→めあての前→1問一答のやり取りは、興味をもって学習を始める手立てとなっている。
 ・クローズドクエスチョンで答えやすい発問でテンポ良く展開している。
 ・教師と生徒の関係づくりができていた。（普段は1対1ではない中、単発の授業でこれができているのはすごい）
 ・問題づくりを通してめあてにせまる方法Good.
 ・本を読みながらアンダーラインを指示して、ポイントを押さえ、説明していたのは良かった。・電子黒板も見やすくとても良かった。（写真）
 ・「開く方」フラッシュカードや小ホワイトボードの活用もあり良かった。
 ・アンダーラインを引いたところから問題をつくるGood.・書く順番を決める抽選クジも楽しみなが良かった。・自分たちで問題を考えさせるところが良かった。
 ・次の活動に進むとき、「めあてを見ます」「次に進みます」「線を引きます」など短いキリ指示を出して、何をするか分かりやすかった。
 ・問いをつくる活動で、先生の例・説明と、つくり方の手順のホワイトボードがあって、始めた後も板書で確認できて良かった。

●改善点
 ・ペア学習の形式であったが、どちらかというと一人で問題を考えていた。
 ・全体的に1問一答形式になっていたが、自然環境の特色から何が分かるのか、またその背景などを考えさせるようにしたい。
 ・最後に問題及び解答をさせたとき、ICTを活用して地図等で確認しながら行うイメージがやすかったと思う。
 ・目標と質問との関係は「地形」や「気候」にせまる質問を意識させてみては、回答するボードが必要だったかな。・板書の工夫→問題を書スベースの工夫。・電子黒板、アフリカの地図の拡大させてみては、1問一答で答えを導き出すのは用意だが、「なぜ」、「どうして」ぶどうが栽培されているのか→めあてに近づける間に結びつけるのは難しかった。発問で「このキーワードを使ってみよう」か手立てが必要。
 ・まとめ(5分前)にもう少し時間がほしい。どうまとめたいか戸惑っている生徒がいた。
 ・めあての言葉→どのような特色が見られますか？だったので、見られるかペアで話し合おう、2つ挙げてみようなどにしては、問題づくりの活動は、「地形」、「気候」に絞ってさせた法がめあてにせまられたと思う。
 ・「教64をあげて～」と教師が指示後にテーマについて話している間、Wさん、Hさん、Rさんはおそらく話しについていけない。（別のページを開いて目まで追っていた）
 ・知識の伝授の割合を減らして、調べ学習や知識の整理の割合を増やせたら良い。例えば、①教科書、資料集からキーワードを拾う。②地形、気候に分類する。③教師と確認する（前年）など、そして、④前年に出したキーワードが分類するよに問題をつくる。⑤つづいた問題を出し合う。（グループ全体）（後半）⑥まとめ振り返りの時間がとれていなかった。（それは次の時間）
 ・生徒に問題を書かせることは良いと思うが、書く範囲を決めてあげた方がきれいな板書になるかと思った。
 ・子どもたちがつづいた問いを書いていたが、レアウトがバラバラなので、1列ずつ3人で交代しながら書いていたので、教師の例のように、大きめの紙に番号を書いて、書いたら貼る方法も良いと思いました。
 ・ペアでさせるなら1つのボードを渡して一緒に問題を○をついたり、2つ答えを考えたとしても良いかと思いました。つづいた問いを前で伝えて、他のペアがホワイトボードで答えると、クイズみたいで考えたリヒントを教科書から探したりできたかなと思いました。

【授業者の振り返り】
 ・タイムマネジメントが課題である。（振り返りの時間がなかった。）
 ・ペア学習やグループ学習へ深められるようにしたい。
 ・ICT機器の有効活用。

主事招聘研究授業（11月）リフレクション			令和元年度		
日付	11月7日	回答者数	8	竹富町立船浦中学校	
教科（学年）	社会（1年）		【本時のめあて】日本の領域には、どのような特性があるか。		
授業者 氏名					

小中連携共通実践事項	◎…よくできている ○…できている △…あまりできていない			評価	備考
	◎	○	△		
1 学習用具を忘れずに準備することができる。	100%	0%	0%	100%	
2 授業が始まる時刻には、席に着くことができる。	100%	0%	0%	100%	
3 授業のあいさつで3秒礼ができる。	100%	0%	0%	100%	

授業マネジメント（船中スタンダード）			◎…よくできている ○…できている △…あまりできていない			評価	備考
項目	三本柱		◎	○	△		
	4 学びのきっかけ・人間性	校内研修	深い学びへ	63%	38%	0%	100%
6 知識・技能	深い学びへ	深い学びへ	50%	50%	0%	100%	生徒は、『まとめ』の段階で、その時間で何を勉強したのか整理する
7 学びのきっかけ・人間性	主体的	主体的	38%	50%	13%	88%	生徒は、『振り返り』の活動で、その時間に勉強したことを自分の言葉で表し、振り返る力が身に付いている。
8 思考力・判断力・表現力	主体的	主体的	50%	50%	0%	100%	生徒は、「自分で考える」ことができる。
9 思考力・判断力・表現力	対話的	対話的	38%	63%	0%	100%	生徒は、自分の考えを「友人や先生に伝える」ことができる。
10 思考力・判断力・表現力	対話的	対話的	25%	63%	13%	88%	生徒は、友人や先生の考えを聞いて「自分の考えを見直したり、広げたりする」ことができる。

○よかったところ
 ・ICTの効果的な活用として電子黒板を活用しての説明が分かりやすかった。
 ・教師の説明、解説は分かりやすかった。
 ・後半に効果的な発問があった。
 ・問題作りの視点を与えていたことが良い。「自分が教えたい重要なところ」が良かった。
 ・「領域とは…」の例を生徒と教師のやりとりで考えさせる導入がgood.
 ・問題作りの視点を与えていたことが良い。「自分が教えたい重要なところ」が良かった。
 ・問題作りがゲーム形式で意欲UPにつながっている。
 ・問題作り→板書→回答の流れは、考える時間があってよかった。
 ・生徒は、フットラングージに積極的に取り組んでいた。
 ・「沖ノ鳥島はなぜ守るのか」の問いかけ。
 ・フラッシュカードが良い。「開く方」なぜ？
 ・ペアで問題をつくらせることで楽しながら考えることができたと感じる。
 ・ICTの活用
 ・ペアやグループで問題をつくるのは良かった。
 ・ホワイトボードを使って生徒の活動する場面があり良かった。その後、黒板に提示して全員でペアで。
 ・「領域」について復習していて、説明が分かりやすかった。説明を聞いた後、デジタル教科書で理解の確認できた。
 ・ペア学習、フットラングージなどの手段がとても興味深かった。
 ・生徒への声かけがとても良かった。
 ・問題をつくる際のポイントを生徒自身に確認させ、さらにペア学習で対話を進めたいのがとても良かった。
 ・生徒の発言を肯定的に受け止める場面が多かった。「おーい、ねー」
 ・めあてが、生徒の言葉で書かせるようになって良かった。
 ・生徒との信頼関係ができていた。授業が楽しそう。

●改善点
 ・話し合い活動において、発言する生徒と、新しい生徒がいる→一人一人が発言できる手立てを！
 ・問題と作成する視点について言葉では言っていたが、視覚化しておく意識して作成でき、時間短縮にもつながると思う。
 ・3つの写真に共通することを生徒に考えさせ、そこからもって深めていけると良かった。
 ・黒板が「めあて」「振り返り」などのフラッシュカードでごちゃごちゃしている。
 ・板書が、そのまま知識の伝達になっていたため、穴埋めや生徒とのやり取りなどの活動にしたい。
 ・フットラングージが、対話になっていなかった。
 ・フットラングージをやる意義がよく分からなかったため、最初に説明がほしい。
 ・「接続水域」を「せつがんすいいき」と言っていた。
 ・問題を考えさせるのは後半でもいいのでは？
 ・沖ノ鳥島を守っているのはなぜ？の場面で、生徒の意見を板書してもいいのでは。
 ・時間配分。
 ・授業スタートすぐにペアを作り、問題作りをしていくのですが、その後、答えが出るのではなく、ノートを書く作業が途中で入ったので、ノートを書くに、問題作成、解答の方がスムーズだったか。（何意図があったのか）
 ・写真について考えたことを発表して、日本の端の島の確認をした後、教科書に戻るとき子どもたちは本を開いて用意できていなかったため、様子を見て待つと良かった。
 ・「なぜその島を守るのか」という問題に対しての答えを対話する前にじっくり考えさせ、ノートに書かせる→評価につながる。
 ・写真は沖ノ鳥島に絞っても良かった→社会問題につなげる。
 ・ホワイトボードで消してしたので、テッシュ1枚渡してあげた方が良い。
 ・資料提示の仕方工夫。
 ・電子黒板を使用するときの模式図（領土、領海、領空）の説明、見方・考え方へつなげることもできそう。
 ・グループでの対話を通して考えを深めることができそう。（発問の工夫で）

【授業者の振り返り】
 ・ペア学習の意図 ①問題作成…生徒主体で何が重要かを考えさせる。②フットラングージ…対話を促す。
 ・タイムマネジメントに課題。
 ・意見交換や発表などが浅く、「深い学び」までできていない。
 ・教師の説明、解説が全体的に長い。生徒に説明させたり話し合ったことを発表させる機会をもっとつくるようにしたい。
 ・振り返りの時間がなかったのが惜しい。時間を逆算してタイムマネジメントを徹底したい。
 ・守るのは何か？何のため？につなぎ、深い学びにもつなげたい。
 ・「領域」の特徴を学ぶ意義を、最初に考えさせたい。
 ・問題作りの際、一人で考える時間、ペアで問題作りと、時間を区切ってあげたい。
 ・フットラングージに記入する内容は、生徒から出させた方がよい。
 ・「活発な噴火を続ける島を何というか」という問題を最後の最後にしか扱えなかった。・時間オーバーを防ぎたい。
 ・ペア、グループで、お互いが分からないことを教え合いながら取り組むクラスの雰囲気良かった。・テッド登山からの研究授業、多忙を極める中での指導案作成、本当に大変な経験でした。
 ・sさんやWさんが主体的に取り組めるような声かけが、本当に勉強になりました。
 ・板書するときの教師の声があってもいいのでは？・社会は知識が重要視されるので、議論する時間配分が難しい。
 ・社会科の先生はしゃべりたがるので、考えさせる時間を有効にする、難しい。

